

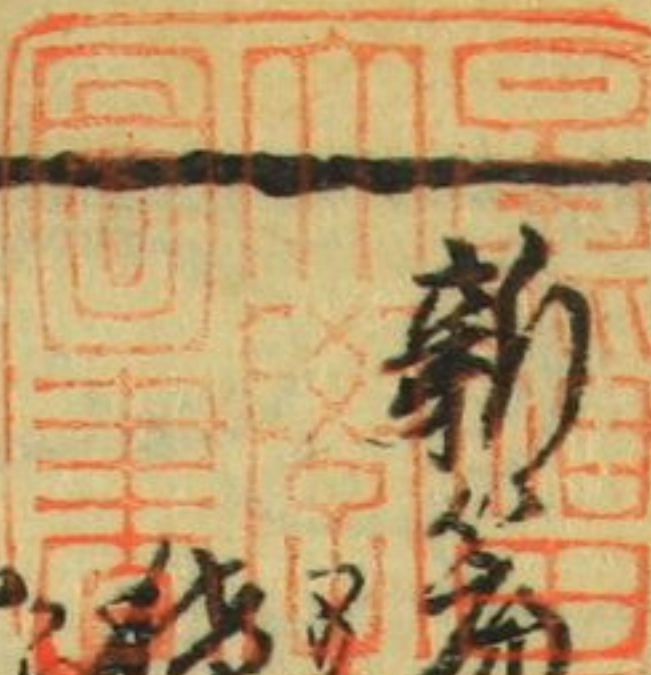


小倉文庫  
イ 16  
50  
1



門 116  
 號 50  
 卷 3

新編 庶務記 卷第 下 目錄



終人字一  
 買令人  
 親のゆり分  
 大工割  
 勾股換  
 二組正色  
 盈胸法  
 田畠  
 田陸載

入人  
 遠人  
 知割  
 付割  
 田載換  
 三組正色  
 方  
 繁  
 九連星



昭和二十七年  
 六月二十一日  
 受入

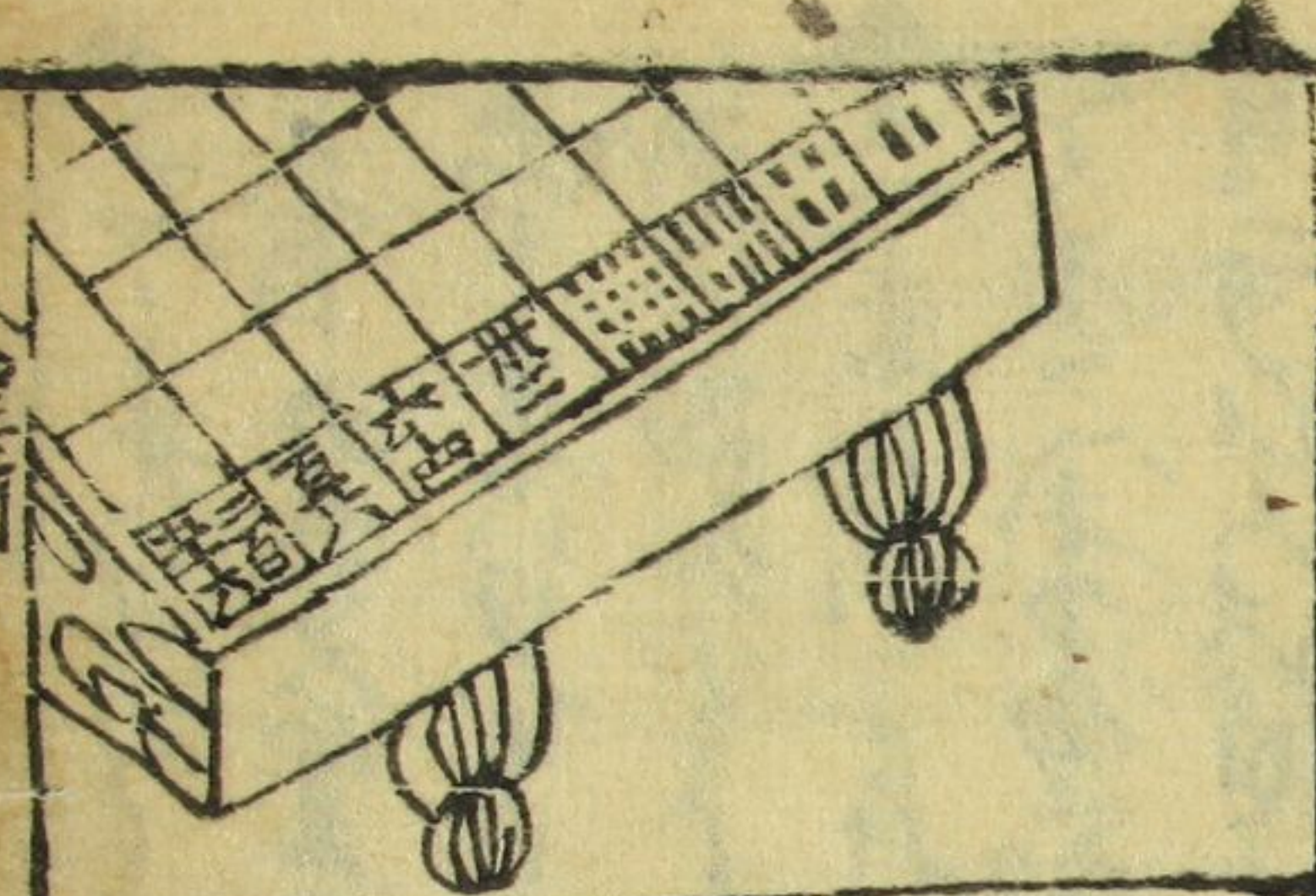
# 月録終



日月の地と云ふは  
 中野のハ  
 方四八又千由旬ありて  
 但も北の所一軍あり  
 て何れも一軍あり  
 月の方四八又千由旬ありて  
 北の所一軍あり  
 月の方四八又千由旬ありて  
 北の所一軍あり



けり一切の事  
 の教と云ふは  
 と云ふは  
 と云ふは



お茶のどんた月ラ米一つお茶一六  
 とく同とよとつて内へて中野の  
 来四半京二千九百七千又地二千七百  
 地二億今四百八十七万六千三百九十一石又  
 斗五升八合七勺又粒二粒  
 これ日本中のものあり一万石  
 てもたふあり



京より江戸まで百廿里のあひは  
後一丈たしひよあつて八廿五  
引ひきこむ向

合二万千六百廿文也

一里は六百八十文也

一里は六百八十文つてあつて

江戸より東京への際合ふとあひ  
よるあつて八何れもささく向

三の合三万令六十三万二千七百八

但一分のちよ又合さして

ちよ合さすはつて八何れもささく向

答曰四万五千八百八十八合也

京より江戸まで百廿里のあひは

ぶあつてあつて八何れもささく向

けし敷 六億七千二百九千二百九

はつて一石の身八條の八文もささ

但すけし 字をたつてあつて

一石は六百八十文也

長十七里九町一里二尺八寸

江戸より東京まで百廿里のあひは

一入つてあつて八何れもささく向

ゆかりあつて

答曰

二万五千九百二十人



今みぶと辨 米六何れし入をくしめ付

六千七百卅又五分七リ入 但し五付去り分

六千七百の内の他三付百五斗

七斗九百十三分九分は重二毛あり

右流つらり可とまふぐんして八流百七斗七毛六分は

今を分拜とくくにのぐて八何れしはまたありし

各百八千二斗。四斗五分七リ二毛四斗五分ありし

右合一ぶ米し六千七百三斗五分二毛七リ

あしはもくあくして八毛何れしは

米 川

### 廿六斗六分八厘五分あり

廿六斗六分八厘五分あり

廿六斗六分八厘五分あり

又廿六斗六分八厘五分あり

何れしは

各百一斗三斗四分九厘五分あり

他廿六斗六分八厘五分

ありしは

一斗三斗四分九厘五分あり

何れしは

各百一斗三斗四分九厘五分あり

又米八斗

各百一斗三斗四分九厘五分あり



日本西中三分ありあめの程はゆりくもそく同

答曰 九京千四百十五兆千四百九億つめえ

右の教げいふつらう。二千二百八十五三千七百八十五右又之

てハゆりくそく同。九百七十七里十八所くも又南北の二百

里して二里ハ世の所ハ二所ハ二万八千六百八十八守守守守守

又つめのほのりく

福どき月毎のてくもくたましくしおとくは吉とぬ

け福どき月毎も又くたましくしおとくは吉とぬ

九千七十七里十八所くも又くたましくしおとくは吉とぬ

たましくしおとくは吉とぬ

合二百七拾六億八千二百九十七万四千四百二足

法ねしとくは七と十一といくればハさのまらく



右の南一日本を合つてくは江のりくは日産何程と内

答曰 千三百八十四万二千八百八十石二斗一合一

右の南一日本を合つてくは江のりくは日産何程と内

右の南一日本を合つてくは江のりくは日産何程と内

答曰 二百廿四返く余百九十三里十二町

但ねしとくは七と十一といくればハさのまらく

右の南一日本を合つてくは江のりくは日産何程と内



秘とて毎年の如く凡そ一に年中  
 多敷敷に二百六十億八千二百五十七万四千四百  
 七千七百七十七人ありてハ他邦に  
 〇四里方何れ五千万人方



但一様ニ言ハルニ居つてもあり  
 大くねとて是にけし一移つても  
 六十九石二斗六人三斗五升六  
 他一平ニク一四万粒入つてもあり

大くねとて是にけし一移つてもありてハ他邦に  
 〇四里方何れ五千万人方  
 日本國中男女の枚数暴白  
 男数十九億九千万八百万人、女数九億四千八百廿八人

食料六億九千万九千六百四十八人

大くねとて是にけし一移つてもありてハ他邦に  
 〇四里方何れ五千万人方  
 大くねとて是にけし一移つてもありてハ他邦に  
 〇四里方何れ五千万人方



年中、八百六十七万二千三百七十六石九斗六升

但身中、三百五十四日又ははらりて  
 右男女の枚、三十二人つゝ居り所  
 〇四里方何れ五千万人方

去十一町、廿一石  
 扱十町、あり

去十一町、廿一石  
 扱十町、あり





すてハ四年八月二十日未だ冬ふらりてハ白ふ  
千五つ八月二十日未だ冬ふらりてハ白ふ  
又ハ五年八月二十日未だ冬ふらりてハ白ふ

せとんあさひいさくたさうめて米のうらひのら  
えと用<sup>ぢ</sup>あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
のさすえ用<sup>ぢ</sup>あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
事<sup>の</sup>のゆえに八月二十日未だ冬ふらりてハ白ふ  
一年中ハ松竹梅のうらひのら  
あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
てハ米のうらひのら

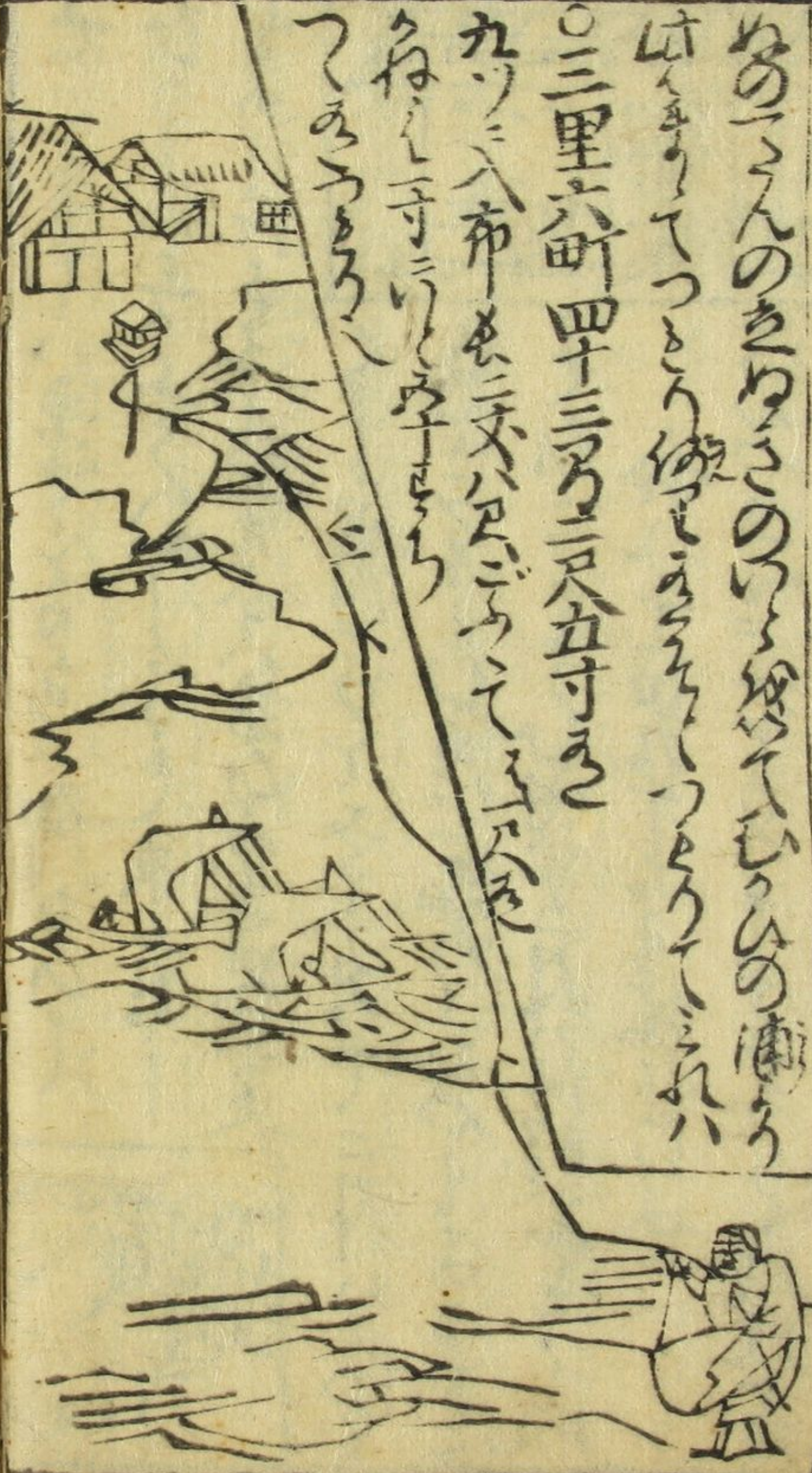


たハ五年八月二十日未だ冬ふらりてハ白ふ  
しハ六年八月二十日未だ冬ふらりてハ白ふ  
あさひいさくたさうめて米のうらひのら



あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
あさひいさくたさうめて米のうらひのら  
あさひいさくたさうめて米のうらひのら

あつりけ敷地ゆかりの同  
 合九億九千七百令令二千九百九十九令  
 此九百九十九のよれ百九十九といふに交るは  
 忘れし



ぬのころのきりこのいつかびつひの浦より  
 けいまりてつとら徳いささきいつたりていれ  
 〇三里六町四十三丁二尺五寸まで  
 カツミ入布を二丈八尺二丁二寸二尺五寸  
 各二丁二寸二尺二寸五丁  
 つていささき

けい一程と目よ、二丁いづく百尺のちるむのいづるむら  
 けい一程と目よ、二丁いづく百尺のちるむのいづるむら  
 百九十一程百九十九核二千五百九十九系千九百令二  
 兆六千三百令億四千万二千二百八千八粒よめ  
 大敷えんのありていへば忘れしすこれゆかりのいささ  
 大敷えんのありていへば忘れしすこれゆかりのいささ  
 十五万又千三百九十二里九町五丁七分七厘二合六分

一里と云ハ六町六丁  
 一町ハ 六十丁  
 一丁ハ 六十丁  
 一合六分七厘  
 一合六分七厘

十五万又千三百九十二里九町五丁七分七厘二合六分

一里	六町六丁
一町	六十丁
一丁	六十丁
一合六分七厘	
一合六分七厘	

五丁七分七厘二合六分

一丁	六十丁
一合六分七厘	
一合六分七厘	

六のりり一科今百枚にほひ  
扱一京七々今ほ儀九の二万七千九千石  
ナ七粒と ちと用方ありて

六六里三町三間三尺二寸九分七厘五毛

六のりり二系八の二万七千九百七

六のりり九儀二の九千九百九

六のりり二の二万七千九百七

六のりり二の二万七千九百七

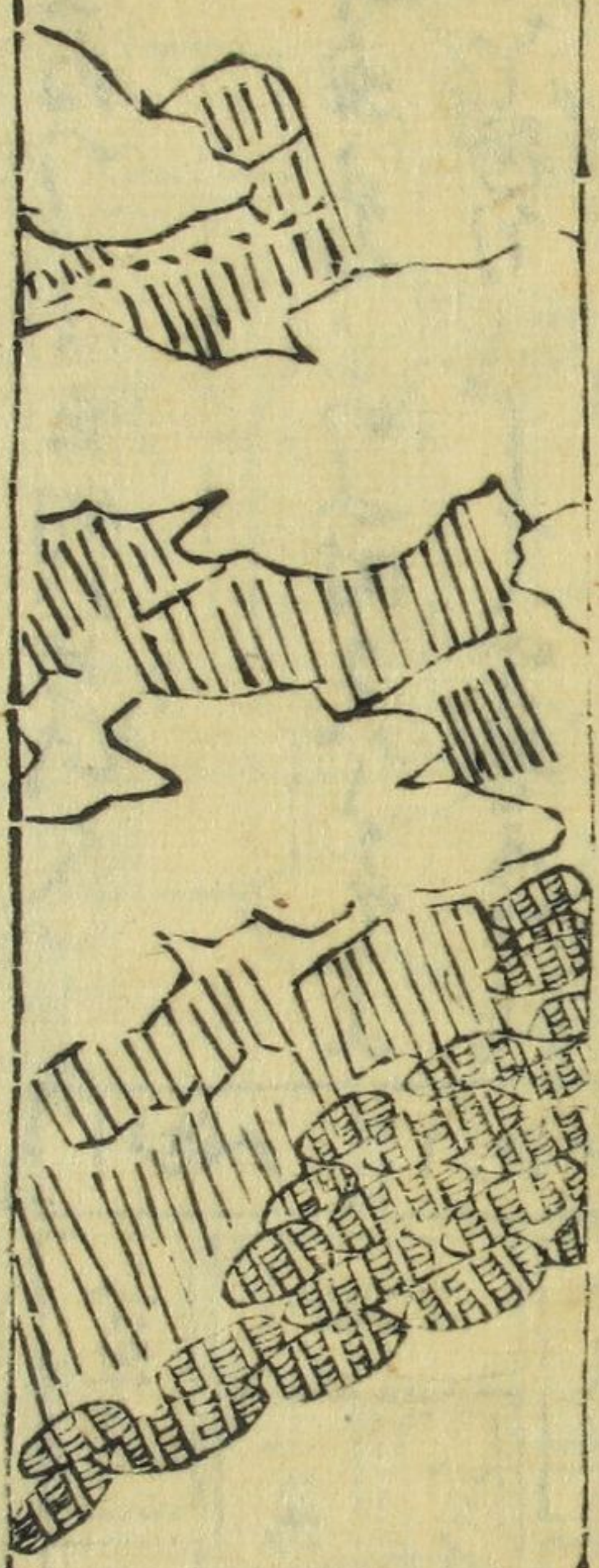
六のりり二の二万七千九百七

六のりり二の二万七千九百七

六のりり二の二万七千九百七

六のりり二の二万七千九百七

日中五中六千六百五の五九、四千万五万とりて  
け算とのとスもくありてナ三河のり四万あり



三河のり

八画のり一と二と三と  
いふりとおとそたのり  
しと

一画	一画	一画
二画	二画	二画
三画	三画	三画

一科今百枚にほひ
千四百九十九百五
北今九十三百五儀六千
三百五十五百九粒

金
---

十又五、一、この中より  
の焼を入り、この中より

十又五、一、この中より

一、五、一、この中より

一、五、一、この中より

一、五、一、この中より

千五、五、一、この中より

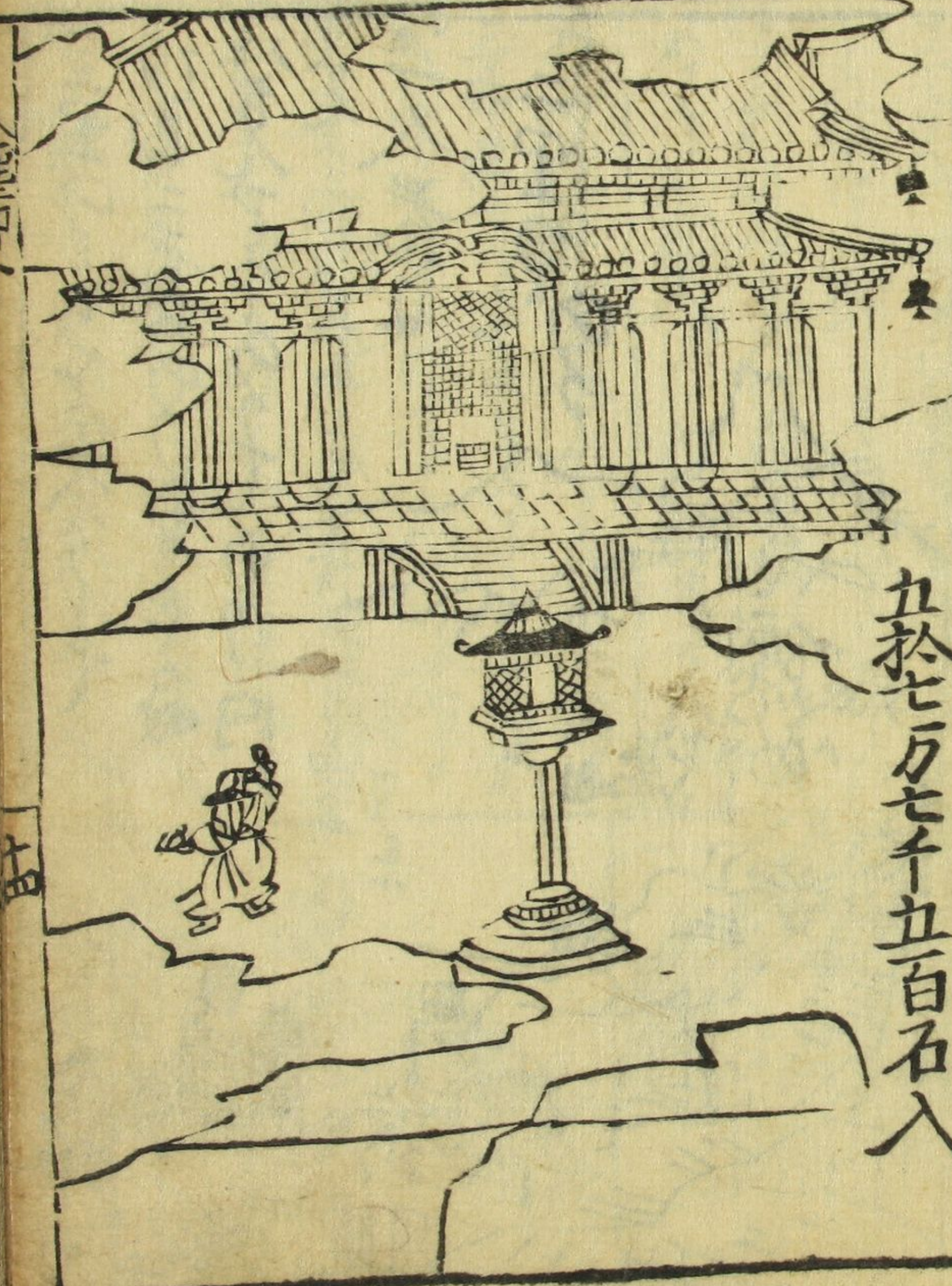
一、五、一、この中より

去、五、一、この中より  
一、五、一、この中より

一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池
一、五、一	池	池	池	池	池	池	池	池	池

大佛の堂、五、一、この中より

九、七、七、七、九、百、石、入



五、一、

五、一、

三軍のちちと三入とて  
 しまふ是はのりあまじら時  
 八るんつらつこのりてあめと向  
 笠着一人前黒馬二里系リテサリ白馬後  
 ム手持一人前  
 白馬  
 二里のり



さうぢやいりのたえぬのとてけつれと栲のうと

とゆりあをせそてまけんふぬの  
 まるんつらつこのりてあめと向  
 とらけぬと人の救布ぬぬぬぬ  
 めも人ぬ人 ぬの百も人

あめと向とてまけぬぬぬぬぬぬ  
 二葉ま守と七葉ま守ともしも  
 本つ二ツとけつとれとけつと  
 先二葉の葉と二葉のころと七葉  
 二葉ま守と二葉のころと七葉ま守と  
 りのけあけあけと七葉と七葉入  
 て又二葉と二葉のころと七葉ま守と





	六分	六分	七分	八分	九分	二分
	七分	八分	九分	一分	二分	三分
	八分	九分	一分	二分	三分	四分
	九分	一分	二分	三分	四分	五分
	一分	二分	三分	四分	五分	六分
	二分	三分	四分	五分	六分	七分

世八分と五分がうらぬ五分と五分と二分五分と九と三分と

あつたのこい物二人の分は割付のり

一めんろん 廿五字斤 一りんくろ 七斤

一まろお 廿八字斤 一いし 八分五斤

ちくはつらといとちろは流石は秋多月とい付とと之わい

合し流とあすちのめと 一流は秋は秋八分月八後の高倉

流は秋は秋多月といとちろは流石は秋多月八後の高倉

ちくはつらといとちろは流石は秋多月八後の高倉

買合 合

糸の高人ののり 百斤十文

六拾四貫八百目 廿八斤十文

めんろん 百斤十文

まろおのあ人ののり 廿八斤十文

立拾二貫三百目 廿七貫五百目

めんろん 廿七貫五百目

ちろのあ人ののり 六十七斤二文

四十二貫九百目 十八斤四文

めんろん 十八斤四文

まろおのあ人ののり 六十七斤二文

ちろのあ人ののり 十八斤四文

めんろん 十八斤四文





米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる  
一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる

一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる  
一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる

一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる  
一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる

一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる  
一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる

一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる  
一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる

一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる  
一石のりくし 米六石四斗のかりしとあり 江戸幕府に納めたる

親子家後

もと治のそとより入るといふ 江戸幕府に納めたる

もと治のそとより入るといふ 江戸幕府に納めたる

もと治のそとより入るといふ 江戸幕府に納めたる

もと治のそとより入るといふ 江戸幕府に納めたる

もと治のそとより入るといふ 江戸幕府に納めたる

もと治のそとより入るといふ 江戸幕府に納めたる

漢書

卷

廿歲 飯米十九石二升六斗六

六斗 廿六石六升六斗七升

七斗 廿五石八升四斗七升

八斗 四十六石八升八斗八升

九斗 六十一石二升八斗三升

十斗 七十八石三升七斗八升

十一 九十九石六升六斗三升

十二 百廿八石八斗八升

十三 百六十一石二升六斗八升

十四 二百二石二升六斗三升

十五 二百廿七石六升六斗八升

十六 三百一石九升一斗八升

十七 四百一石六升八斗八升

十八 五百八石六升九斗三升

十九 六百廿三石三升八斗三升

廿 七百廿七石八升九斗三升

廿一 九百九十七石八升六斗

廿二 千二百六十六石二升四斗

廿三 千五百卅五石二升九斗

廿四 千九百卅六石九升九斗

七斗五石五斗八分

六百九十九石六分

九百九十八石八分

一萬二千十三石五分

一萬五千九十二石二分

二萬八千六百六十四石九分

二萬五千九十七石二分

三萬二千九百九十九石

四萬九百九十二石五分

五萬二千九百八十八石二分

六萬六千九百九十七石七分

八萬三千二百九十九石九分

十萬四千三百三十三石六分

十三萬九千九百九十七石

十六萬三千二百九十四石六分

廿萬三千二百九十一石二分

廿五萬七千九百九十六石一分

卅萬九千九百九十九石二分

卅九萬七千四百一十四石五分

五十一萬九千九百七十七石二分

六五	二千四百四十三石二分八厘	六十二石二分二厘一分
六六	二千九百三十三石七分六厘	七十七石二分九厘八毫
六七	三千七百六十二石二分九厘	九十七石三分二厘六毫
六八	四千六百六十七石六分六厘	百零六石八分九厘
六九	五千七百九十七石三分六厘	百零九石八分九厘九毫
七〇	七千二百九十八石三分六厘	百零八石八分九厘九毫
七一	九千零三十三石八分七厘	二百零四石二分九厘九毫
七二	一万一千二百六十七石四分六厘	二百九十五石二分九厘九毫
七三	二万四千四百九十九石九分六厘	三百零六石二分九厘九毫
七四	二万七千五百零七石三分六厘	四百零四石二分九厘九毫

七五	二万七千七百六十一石二分六厘	五百零三石二分九厘九毫
七六	三万零四百零二石四分六厘	七百零九石二分九厘九毫
七七	三万四千零三十三石九分六厘	八百零四石二分九厘九毫
七八	四万二千六百六十九石六分六厘	千九百零三石二分九厘九毫
七九	五万三千五百零五石四分六厘	十三百零九石二分九厘九毫
八〇	六万五千八百零九石二分六厘	千七百零五石二分九厘九毫
八一	八万七千七百零七石四分六厘	二千零四石五分九厘九毫
八二	拾万二千九百零三石六分六厘	二千零六石六分二厘九毫
八三	十二万七千六百零四石四分六厘	三千零三石六分九厘九毫
八四	十五万三千三百零六石四分六厘	四千零九石三分九厘九毫



新編

おれも二千人よりけしてはてさてこれ二男のよりなれ  
たれし二男は男にあたりしおれは

おれは二男は男にあたりしおれは

千五百をいふものぬは百五十人

村八郎七人ぬおれは百五十人

何よせんいへしおれは百五十人

東村 百五十人ぬおれは百五十人

西村 百五十人ぬおれは百五十人

北村 百五十人ぬおれは百五十人

南村 百五十人ぬおれは百五十人

東村 百五十人ぬおれは百五十人

西村 百五十人ぬおれは百五十人

北村 百五十人ぬおれは百五十人

南村 百五十人ぬおれは百五十人

東村 百五十人ぬおれは百五十人

西村 百五十人ぬおれは百五十人

北村 百五十人ぬおれは百五十人

南村 百五十人ぬおれは百五十人

東村 百五十人ぬおれは百五十人

西村 百五十人ぬおれは百五十人

北村 百五十人ぬおれは百五十人

南村 百五十人ぬおれは百五十人

東村 百五十人ぬおれは百五十人

西村 百五十人ぬおれは百五十人

北村 百五十人ぬおれは百五十人

南村 百五十人ぬおれは百五十人

東村 百五十人ぬおれは百五十人

西村 百五十人ぬおれは百五十人

北村 百五十人ぬおれは百五十人

大の割

此中の村を若手する二分とくれば元身も又此  
村を百無二二分倍しては分りくれば元身も又  
只八の身と倍半と加ては元身も又この倍  
るまで上村の物もハツ三分七リ一毛と  
三分七リ一毛と上村の物もハツ三分七リ一毛  
と村の物もハツ三分七リ一毛と上村の物も  
ハツ三分七リ一毛と

上五五百人 中大五千人 下大五千人  
二五五千人 元身も倍の時より中七人  
下八人よりして百元の身よりして  
付ゆりくは倍する向。一上六二人 付 羅八人  
中大五人 付 元身も倍の時より中七人  
下八人よりして百元の身よりして

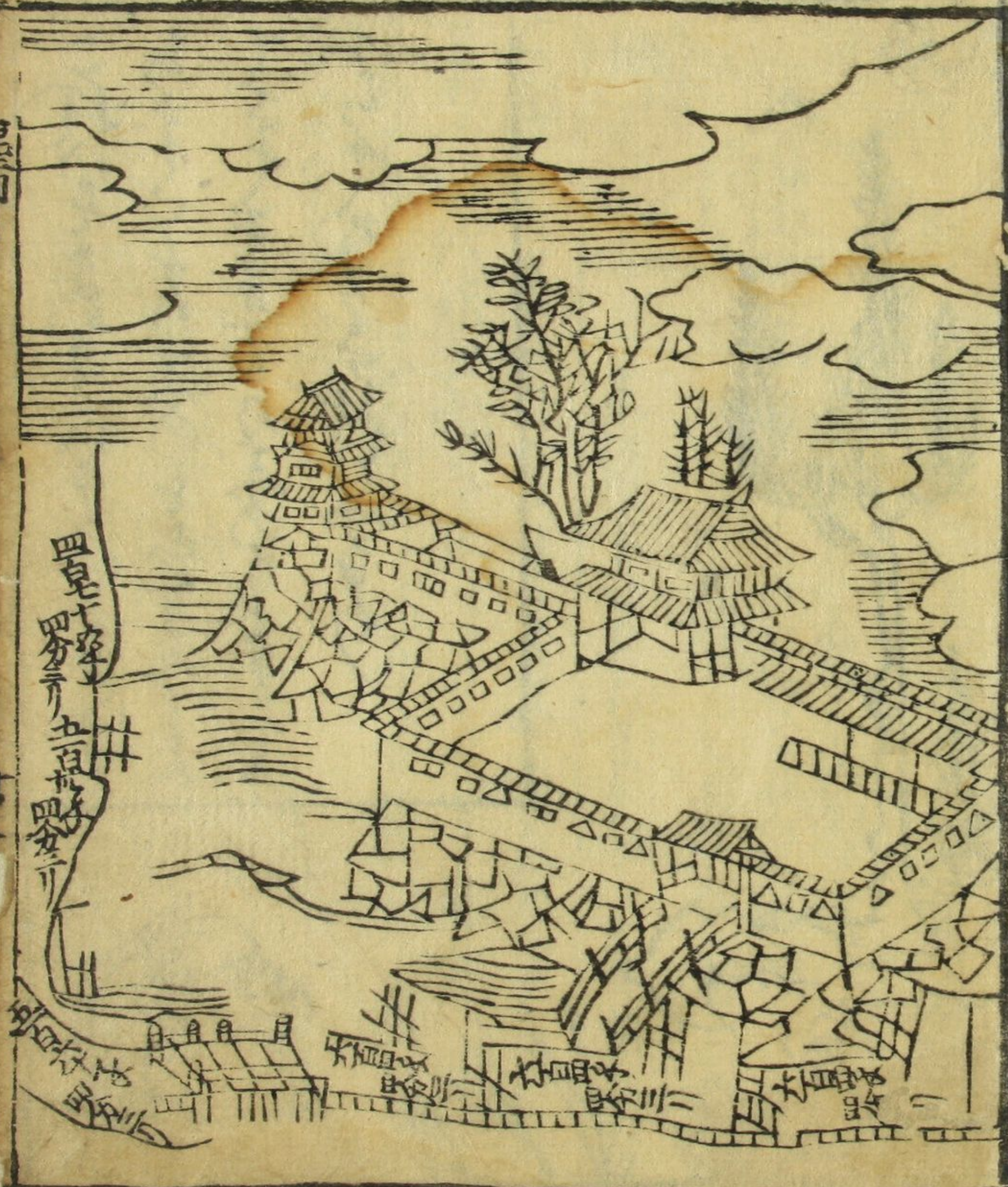
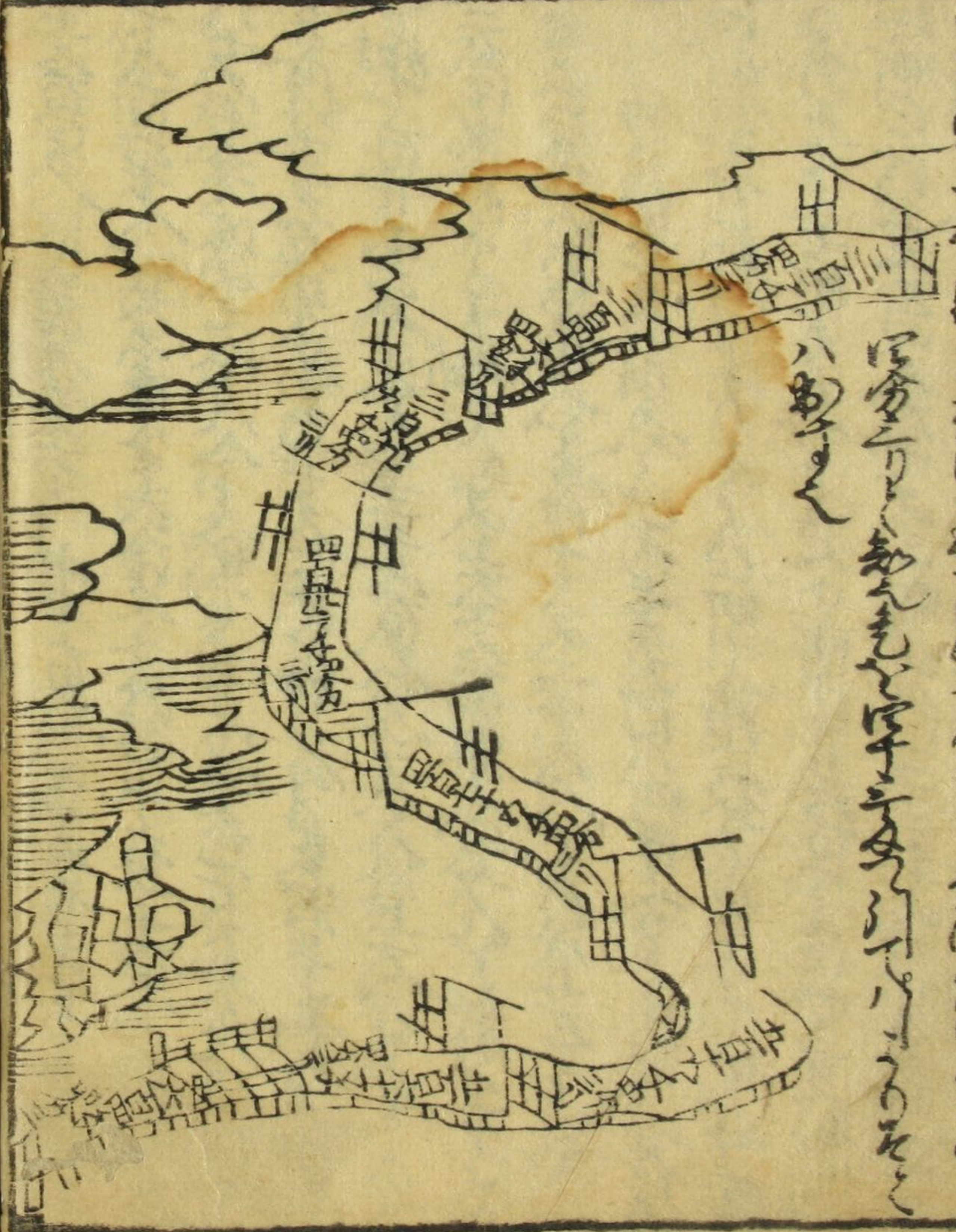
橋の割

上五五百人 中大五千人 下大五千人  
二五五千人 元身も倍の時より中七人  
下八人よりして百元の身よりして  
付ゆりくは倍する向。一上六二人 付 羅八人  
中大五人 付 元身も倍の時より中七人  
下八人よりして百元の身よりして

七所

七所

四百五十二の地所敷所の...  
 四百五十三の地所敷所の...  
 四百五十四の地所敷所の...  
 四百五十五の地所敷所の...  
 四百五十六の地所敷所の...  
 四百五十七の地所敷所の...  
 四百五十八の地所敷所の...  
 四百五十九の地所敷所の...  
 四百六十の地所敷所の...  
 四百六十一の地所敷所の...  
 四百六十二の地所敷所の...  
 四百六十三の地所敷所の...  
 四百六十四の地所敷所の...  
 四百六十五の地所敷所の...  
 四百六十六の地所敷所の...  
 四百六十七の地所敷所の...  
 四百六十八の地所敷所の...  
 四百六十九の地所敷所の...  
 四百七十の地所敷所の...  
 四百七十一の地所敷所の...  
 四百七十二の地所敷所の...  
 四百七十三の地所敷所の...  
 四百七十四の地所敷所の...  
 四百七十五の地所敷所の...  
 四百七十六の地所敷所の...  
 四百七十七の地所敷所の...  
 四百七十八の地所敷所の...  
 四百七十九の地所敷所の...  
 四百八十の地所敷所の...  
 四百八十一の地所敷所の...  
 四百八十二の地所敷所の...  
 四百八十三の地所敷所の...  
 四百八十四の地所敷所の...  
 四百八十五の地所敷所の...  
 四百八十六の地所敷所の...  
 四百八十七の地所敷所の...  
 四百八十八の地所敷所の...  
 四百八十九の地所敷所の...  
 四百九十の地所敷所の...  
 四百九十一の地所敷所の...  
 四百九十二の地所敷所の...  
 四百九十三の地所敷所の...  
 四百九十四の地所敷所の...  
 四百九十五の地所敷所の...  
 四百九十六の地所敷所の...  
 四百九十七の地所敷所の...  
 四百九十八の地所敷所の...  
 四百九十九の地所敷所の...  
 五百の地所敷所の...



四百七十一  
 四百七十二  
 四百七十三  
 四百七十四  
 四百七十五  
 四百七十六  
 四百七十七  
 四百七十八  
 四百七十九  
 四百八十  
 四百八十一  
 四百八十二  
 四百八十三  
 四百八十四  
 四百八十五  
 四百八十六  
 四百八十七  
 四百八十八  
 四百八十九  
 四百九十  
 四百九十一  
 四百九十二  
 四百九十三  
 四百九十四  
 四百九十五  
 四百九十六  
 四百九十七  
 四百九十八  
 四百九十九  
 五百



知<sup>ち</sup>長<sup>なが</sup>木<sup>き</sup>立<sup>た</sup>ち

二れいそまふふくこのいこ  
ちまひつうの本のいそまふふく  
てさそいそまふふく本のいそまふ  
うらそいそまふふく



後<sup>のち</sup>股<sup>のまた</sup>勺<sup>のすく</sup>

乾<sup>けん</sup>

坤<sup>こん</sup>



東

東いぬいりまきり二方を八十  
又東方のまきりあか  
いぬいの方ひらこ同  
ひらこの方ひらこ同  
東ひらこひらこひらこ二方を七十

後<sup>のち</sup>截<sup>のきり</sup>四<sup>のよ</sup>

と形木をさそ方二本口まきり  
すありけ代形木をさそ二本口  
まきり二本口まきり二本口まきり  
りこまきり二本口



二組に 欠

松木 八十中  
檜木 五十中  
松木 百五中  
松木 百廿二中

松木 百五中  
松木 百廿二中  
松木 百廿二中

栗木 九十中  
栗木 百廿中  
栗木 百廿中

栗木 百廿中  
栗木 百廿中  
栗木 七中

右松木松板栗  
おのく二付ゆりそ  
菅  
いのみ 一付付  
結 一付付

松木 二十中  
松木 二十中  
松木 二十中

松木 二十中  
松木 二十中  
松木 二十中

松木 二十中  
松木 二十中  
松木 二十中

右松木松板栗のおのく二付ゆりそ

二組に 欠

松木 三十中  
松木 三十中  
松木 三十中

松木 三十中  
松木 三十中  
松木 三十中

松木 三十中  
松木 三十中  
松木 三十中

右の松木松板栗のおのく二付ゆりそ







唐書

卷



唐書

卷



唐書卷之... 唐書卷之... 唐書卷之... 唐書卷之... 唐書卷之...

唐書卷之...

誤算を改め

この明曆四年版は、多少の繪  
を省略した外には、寛永十八  
年版と内容に於て同一のも  
のであり、遺題も載せてある。

昭和十三年二月

小倉金之助



